

第421回 幹事会だより

1月21日(水)於 JR尼崎・みなと

○尼崎支部の会員数と組織率

現在 医科375人(81.8%)、歯科122人(46.9%)

○情勢と運動対策

経済危機への大企業の対応について意見交換。国保料の滞納世帯が20%以上にのぼる問題で、国保のあり方について議論した。

○当面の支部活動

2/19 第75回医療と福祉を考える会など。

○次回の幹事会

2月25日(水)20時から「宝」(JR立花駅徒歩5分)で開催。会員の先生はどなたでもご参加いただけます。お問い合わせはTEL 078-393-1817 小川まで。

企画案内

兵庫保険医協会尼崎支部 第75回医療と福祉を考える会

転倒予防・骨折予防対策

兵庫保険医協会尼崎支部 支部長 八木 秀満

今月の「医療と福祉を考える会」は、「転倒予防」について勉強します。

転倒は、高齢者を介護する上で常に注意しておく必要があります。どうして転倒するのか、転倒によってどのような骨折が生じやすいのか、どうすれば転倒を予防できるのか等、日常生活上の注意点と対策についてお話します。

(講師・大村整形外科クリニック 院長 大村 宗久)

日時 2月19日(木) 18時30分～20時30分

会場 尼崎市中小企業センター 401号

TEL: 06-6488-9501(阪神尼崎駅より徒歩5分)

講師 大村整形外科クリニック 院長 **大村 宗久** 先生

参加費 無料

お問い合わせは協会事務局 小川・荒川・小西・納富(ノウトミ)まで。TEL078-393-1801

兵庫保険医協会

尼崎支部ニュース

296号

2009年2月15日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

第73回医療と福祉を考える会「よい咳・悪い咳の違いとその看護・介護の対応」

感想文 咳への対応の基本学んだ

尼崎支部は1月22日、第74回医療と福祉を考える会を尼崎市中小企業センターで開催。「よい咳・悪い咳の違いとその看護・介護の対応について」というテーマで、尼崎医療生協病院の中田均先生が講演。医療スタッフら22人が参加した。参加者からの感想文を紹介する。

中田先生はとてもわかりやすくお話して下さいました。まずは、咳のメカニズムについて聞きました。脳血管障害やADL低下、抗精神薬等の原因による咳反射低下の場合には、咳を鎮める薬を投与してはいけないとのことでした。

また、症状の持続期間で急性咳嗽と慢性咳嗽に分けられ、その原因についての説明や、インフルエンザとかぜのちがいについても聞きました。参加者から、高齢者に多い結核について質問が出ました。「咳が続く。倦怠感や微熱がある。若い頃に結核になっている」という場合は結核が疑われるということでした。

咳だけでなく、他の症状がないか、元気なのか、ごはんは食べられているかなど、よく観察することが必要とのことでした。

高齢者の肺炎の特徴として、咳・痰・発熱などの典型的な症状を欠くことが多い。実際、在宅の高齢者でそれほど熱はないのに、肺炎を起している場合もあり、介護者は、常に注意を怠ってはならないと思いました。また、肺炎の原因として、誤嚥の関与が大きいということを改めて認識しました。

参加されていた先生からの指摘もありましたが、看護や介護をする人が感染源とならぬよう、まず自分自身の健康管理をしっかりしなくてはならないと思いました。

参加者から具体的事例にそった質問が多く出された

【ケアプランセンターはたなか・ケアマネージャー 野中恭子】



講演する中田先生



住民要求実現へ「政治決戦」の年

——尼崎民主市政の会が定期総会



来年の市長選挙に向け、
白井市政の評価を行っていく

尼崎民主市政の会は1月29日、尼崎労働福祉会館で2009年度定期総会を開催、医療、保育、教育、労働分野など市内運動団体から36人が参加し、尼崎地域の暮らしと健康をめぐる諸課題に積極的に働きかける運動方針を採択した。

討論では、公立保育所民間移管、給食調理業務民間委託、市立高校統廃合問題、市役所非正規職員の処遇問題、県立塚口病院と尼崎病院の統廃合問題など、地域生活に深い影響を与える諸問題にたいし、市民の力をいかに結集して要求実現に向けた運動を盛り上げるか熱い意見が交わされた。

特に、たった900mの県道拡幅工事に174億円の税金を費やし、地元尼崎市も44億円負担する園田—西武庫線整備事業は、戦後直後の60年前から塩漬けにされてきた計画で、しかも費用の多くが三菱電機の工場への補償であることが紹介され、住民の暮らしにしわ寄せをし、不要不急の大型公共事業を優先する市政を転換しようと訴えられた。

今年は4月末に衆議院選挙、6月に市議員選挙、7月に兵庫県知事選挙が予定される「政治決戦」の年。来年2010年11月には任期満了に伴う尼崎市長選挙があり、次期市長選挙に向け、2期の白井文市政の分析・評価も民主市政の会として今年独自に行っていくことが確認された。

阪神大震災から14年——

震災を忘れないことが必要

金楽寺健康教室・講話「お口と健康」

阪神・淡路大震災から14年、震災対策として取り組んできた金楽寺復興住宅での健康教室を1月28日に開催した。この取り組みは、入居者の「引きこもり」、ひいては孤独死を防止するものとして継続しており、住人から喜ばれている。

今回は支部幹事の松田哲一先生が「お口と健康」のテーマで講演し、入居者10人が参加した。松田先生は口の機能をわかりやすく解説し、歯や口の健康が全身の健康にとっても重要であることを説明した。入居者も熱心に参加し、入れ歯の管理など日常生活の中での疑問などが交流された。また、松田先生は震災直後の状況を振り返りながら、「震災を節目ふしめ思い出し、忘れないようにすることが必要」と呼びかけた。



震災から14年経った今も、
入居者の孤独死防止に役立っている

「アスベスト被害から命と健康を守る会」第4回総会 運動を強め国の責任追及しよう

協会尼崎支部も参加する「アスベスト被害から命と健康を守る会」は2月7日、尼崎労働福祉会館小ホールで第4回総会を開催し、支援者など74人が参加した。

森岡芳雄環境・公害対策部長がメッセージを送り、連帯して国・加害企業の責任追及と被害者の完全救済に取り組むことを呼びかけた。また、八木秀満支部長が代表委員に再任された。

総会では、まず船越正信同会会長(尼崎医療生協理事長・協会会員)が挨拶。今後甚大になると予想される被害を最小限に抑え、被害者の完全救済を実現するために運動の強化を訴えた。次いで、弁護団事務局長の八木和也弁護士が訴訟の争点を解説し、勝利への展望を語った。八木弁護士は「国とクボタがアスベストの危険



あいさつする船越同会会長



74人が参加した

性をいつまでに、どれだけ知っていたかがポイント」とし、これから本格的な議論となることを強調。傍聴をはじめとした訴訟への支援を呼びかけた。また、新たに原告団に加わった保井氏が紹介され、国に責任を認めさせたいと決意を語った。

総会は系統的な相談活動による被害者、原告の掘り起こし、アスベスト検診受診の促進、全国で広がっている運動との連帯などを重視する方針を決定。組織強化や取り組みの推進のために一層の支援を広げようと呼びかけた。

粘り強く続けてます!

尼崎社保協が恒例の街頭宣伝を実施

後期高齢者医療制度は絶対廃止を



尼崎社会保障推進協議会は、2月7日に阪神尼崎駅前では後期高齢者医療制度の廃止・撤回を求める街頭宣伝を実施し、7人が参加した。「制度はなんとしても廃止を」との呼びかけに、次々と人が立ち止まり署名に応じ、約1時間で101筆の署名が集まった。

この宣伝行動は、2007年10月からほぼ毎月続けており、現在までに計14回、延べ145人が参加し、1389筆の署名を集約している。

後期高齢者医療制度

廃止請願署名付ポケットティッシュ

医院の受付、待合室などでご活用ください!
無料で郵送いたします。

※ご注文は、TEL:078-393-1807まで。

ぜひご協力を!

